

2. 調査結果の概要

① 農林水産物・食品の消費実態調査

○ 購入商品について

購入した商品の情報の入手先では「店頭」が最も多く、次いで「家族・友人・知人」の順となり、「ポータルサイト」や「フェイスブック等SNS」などの情報よりも、実際に沖縄の農林水産物・食品を店頭で見た際の情報を優先する傾向となり、商品の購入理由では、「沖縄らしい」と「おいしい」が多くなりました。

また、購入したかったが購入しなかった商品については「石垣牛」、「刺身」、「果物」などの生鮮食品が多くを占めており、その

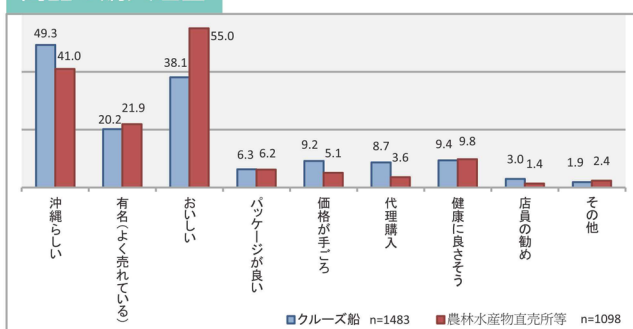
理由としては、「自国に持ち込めるか分からない（検疫）」の割合が最も高く、検疫に関する知識不足が主な購入阻害要因となるケースが多く、他の理由では「運搬中に商品の破損のおそれがある」、「外国語表記がない」、「長持ちしない（賞味期限が短い）」などがありました。

一方、購入時に不便に感じた点では「Wi-Fi 環境がない」、「外国語表記がない」の割合が高く、他の理由では、「自国に持ち込めるか分からない（検疫）」、「免税が受けられない」などの理由がありました。

また、食品購入で良かった点は「サービス面」が最も高く、次いで「商品の評価」、「接客面」と接客面で高評価となりました。

困った点・不便な点では「多言語対応」が突出しており、「通訳のスタッフが少ない」、「中国語や英語での説明書がない」などの意見もありました。

商品の購入理由

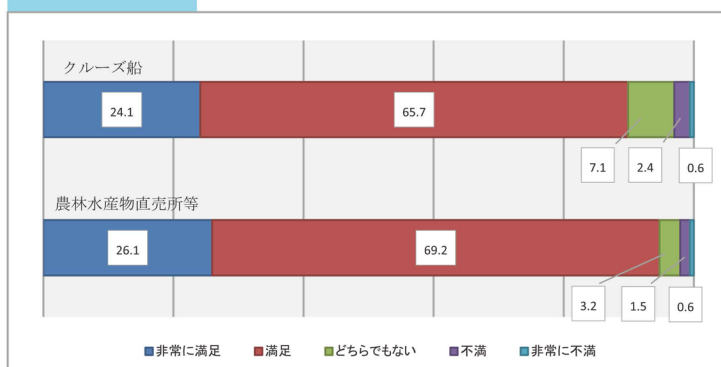


○ 外食について

外食した品目では「海鮮料理」、「麺類」、「石垣牛料理」の割合が高く、満足度は非常に高くなっています。

また、外食で良かった点は「サービス面」が最も高く、次いで「味の評価」となり、新鮮、材料が良いなどの質への評価が高くなりました。一方、困った点・不便な点では、「多言語対応」が突出して高く、「翻訳メニューのある店が少ない」、「言葉が通じなかった」などの意見がありました。

外食満足度



○ 農山漁村体験の意向

沖縄での農山漁村体験についての意向は、約6割が農山漁村での体験をしたいと回答がありました。そのうち関心のある体験は「地元の食材を使った料理体験」が最も高く、次いで「農家民宿」、「農家レストラン」となり、農山漁村体験への関心が高いことが分かりました。

② 農泊の受入れをしている農家の現状と課題

インバウンドを受け入れている地域は、大宜味村、読谷村、名護市など複数ありますが、全体では年間約500名程度の受入れでした。

受入れの際に提供している体験では、「農業体験」や「自然体験」など日本人客と同じ体験に加え、「農村地域の伝統文化体験」や「沖縄料理体験」などが人気となりました。

インバウンドを受け入れるにあたり困っていることは、生活習慣などのマナーについて理解してもらえないことやルールを守らないことなど言語、コミュニケーション面において多くあるということが分かりました。また、インバウンドを受け入れるための工夫としては、「施設・料理等への多言語表記」が最も多く、タブレット等の機器の導入や簡易な会話集の導入などの工夫が見られました。

※ 冒頭で記載したその他のトピックス及び他の部分においても、多様かつ最新の地域情勢等を紹介しています。

平成28年度 沖縄農林水産業の情勢報告の公表について

特集

【農林水産部】

農林水産部では、平成28年度の沖縄の農林水産業の動向などを取りまとめた「平成28年度沖縄農林水産業の情勢報告」を公表しました。平成28年度の特集部分は、ホットな事例や人物などを取り上げ、沖縄の多様な地域情勢を5つのトピックとして紹介しています。

- トピック1：未来の沖縄農林水産業を担う生産者たち
- トピック2：地域農業の新たな展開を牽引する農業生産法人
- トピック3：水が拓く沖縄の農業と新たな取組について
- トピック4：「平成28年度沖縄におけるインバウンドの農林水産物・食品の消費及び農泊の実態調査」について
- トピック5：現場と農政を結ぶ業務について

このうち、2つのトピックを以下のとおり紹介します。

未来の沖縄農林水産業を担う生産者たち

1. 概要

沖縄県内で、高い経営意欲に基づき地理的・文化的特性を活かした多種多様な農林水産物を生産し、地域農林水産業や農山漁村についての独自のビジョンや問題意識を持つ若手生産者（以下の5名）を取り上げ、紹介しています。

紹介に当たっては、現在までの御経歴（生い立ちや現在の生業に従事した契機など）や事業の現状・展望、御自身が考える沖縄農林水産業や農山漁村の在るべき姿などについて個別にインタビューを行いました。

また、当該トピックは、今回の紹介により、掲載した各生産者の皆様の今後の更なる御活躍の一助となり、他の生産者の今後の事業や地域活性化の取組の御参考としていただくとともに、第一次産業とは関わりのない又は今後の就農を考えている方々が、沖縄だけでなく農林水産業全体への御関心を抱くきっかけになることを目的に作成しています。

2. 取材した若手生産者※

生産者①：宮古島市伊良部島の吉浜崇浩氏（カニ漁師・養殖業者）

生産者②：与那国島の本田哲也氏（パクチー等農家）

生産者③：石垣島の砂川拓也氏（葉たばこ農家）

生産者④：今帰仁村の豊里友作氏（スイカ農家）

生産者⑤：多良間島の湧川農氏（肉用牛繁殖農家）

※ 紹介の順番は順不同です。



吉浜崇浩氏



本田哲也氏



砂川拓也氏



豊里友作氏



湧川農氏と御家族

「平成28年度沖縄におけるインバウンドの農林水産物・食品の消費及び農泊の実態調査」について

1. 調査の概要

沖縄総合事務局では、以下のとおり、①クルーズ船利用者及び農林水産物直売所等に来訪するインバウンド（訪日外国人旅行者）を対象に、農林水産物・食品の消費実態や関心についてアンケート及びヒアリングを実施し、今後の沖縄におけるインバウンド向けの農林水産物・食品の消費拡大や輸出の可能性についての調査を実施しました。併せて、②農泊の受入農家等を対象に、インバウンドの受入れについてのアンケートを実施し、農泊に対するニーズについて取りまとめましたので、調査結果について紹介しています。